

桐朋

アカデミー・オーケストラ

第44回 定期演奏会

大沢野公演



4.28 (土)

富山市大沢野文化会館 [大沢野総合行政センター隣り] 開演15:00 (開場14:30)

指揮・ヴァイオリン / 服部讓二 (ウィーン室内管弦楽団正指揮者)

ソプラノ独唱 / イヴォナ・ソボトカ (エリザベト王妃国際音楽コンクール第1位)

シェーンベルク: 浄められた夜 作品4 (1943年編曲版)

マーラー: 歌曲集「子供の不思議な角笛」より

第7曲 ラインの伝説 第4曲 だれがこの歌を作ったのだろう

第5曲 この世の生活 第9曲 美しいトランペットが鳴り響く所

R.シュトラウス: 歌劇「ばらの騎士」組曲 作品59

入場料2,000円 (全席自由 / 友の会会員・学生・生徒・児童 無料)



Joji Hattori



Iwona Sobotka

※演奏曲目・出演者等は変更になる場合もあります。演奏会等に関する最新情報は、
本学ホームページ (<http://www.tohomusic.ac.jp>) をご覧ください。

※有料の演奏会につきましても、桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・学生・生徒・児童の皆様は、無料でご入場いただけます。

チケット販売所 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務室、北日本新聞文化センター、アスネットカウンター (オーバード・ホール1F)、ミヤコ楽器店
主催 / 桐朋オーケストラ・アカデミー、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学院大学、(財) 富山市民文化事業団、富山市、富山市教育委員会、(株) 北日本新聞社 後援 / 富山県、(社) 富山県芸術文化協会
(お問い合わせ) 〒930-0138 富山市呉羽町1884-17 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務部演奏課 Tel.076-434-6800

桐朋オーケストラ・アカデミー「友の会」会員募集中

桐朋 アカデミー・オーケストラ

第44回 定期演奏会 大沢野公演



指揮・ヴァイオリン／服部 譲二 Joji Hattori

1969年東京生まれ。8歳で家族と共にウィーンに移り住む。ウィーン・フィルのトップメンバーたちと室内楽を楽しみながら育ったことが、その後の音楽観の形成に大きな影響を与えた。ヴァイオリンをライナー・キュッヒルのほか、ミシェル・シュヴァルベ、ウラディーミール・スピヴァコフに師事。またユーディ・メニューインとの交流によって音楽面のみならず、人間的にも多大な影響を受けている。20歳でイギリスのメニューイン国際ヴァイオリン・コンクールで第1位、同時にバッハ賞・聴衆賞を受賞。92年、第3回新日鉄音楽賞“フレッシュ・アーティスト”を受賞。ヴァイオリニストとして国際的に活躍後、2002年に第1回マゼール／ヴィラー指揮者コンクールにおいて“リンカーン・マゼール・フェロシップ賞”を受賞、カーネギー・ホールでのデビューを果たす。これを機に、指揮者として本格的に始動。04年よりウィーン室内管弦楽団の正指揮者に就任、ウィーン・コンツェルトハウスでの定期演奏会のほか、スイス、フランス、南米、インドなど、海外ツアー公演でも成功をおさめる。そのほか最近ではウィーン交響楽団、フィルハーモニア管(09年、11年のロイヤルフェスティバルホールにてのロンドン定期公演など)、BBCコンサート・オーケストラ、スロヴァキア・フィル、読響、札幌、関西フィルなどを指揮している。また、これまでマリア・ジョアン・ピリス、ピョートル・アンデルジェフスキ、エリザベス・レオンスカヤ等のソリストと共演している。オペラ指揮者としては、04年、ウィーン室内歌劇場のモーツァルト「偽の女庭師」でデビュー。05年に新国立劇場の小劇場にレオンカヴァッロ「ザザ」(日本初演)で初登場、06年には同大劇場で指揮した。07/08シーズンにはドイツ・エアフルト歌劇場の第1カベルマイスターを務めた。09年にはウィーン国立歌劇場にてモーツァルトの「魔笛」を3回指揮し、好評を博す。更に09年夏以来、オーストリア・キットゼー・サマーフェスティバルの音楽監督を務めている。日本では、01年に日本を代表する若手音楽家から成る新しい室内オーケストラ「東京アンサンブル」を結成し、毎年、東京公演のほか、韓国、ポルトガル、カナダ、オーストリア、ギリシャ、トルコにて海外ツアー公演も行っている。また、09年より落語とコラボレーションした「オペラプロジェクト」を開始。12年4月はチャイナ・フィルハーモニック・オーケストラと北京にてヴァイオリン・ソリストとして演奏を予定しており、12/13年のシーズンでは、ウィーン室内管弦楽団と東南アジア・ツアー、デュッセルドルフ交響楽団の指揮等も予定されている。その他、メニューイン国際ヴァイオリン・コンクールの会長及び審査員。03年よりイギリスの王立音楽院の名誉会員。また、他分野への興味も深く、オックスフォード大学で、社会学を学んで以来、ナショナル・アイデンティティの研究を続けている。

ストリア、ギリシャ、トルコにて海外ツアー公演も行っている。また、09年より落語とコラボレーションした「オペラプロジェクト」を開始。12年4月はチャイナ・フィルハーモニック・オーケストラと北京にてヴァイオリン・ソリストとして演奏を予定しており、12/13年のシーズンでは、ウィーン室内管弦楽団と東南アジア・ツアー、デュッセルドルフ交響楽団の指揮等も予定されている。その他、メニューイン国際ヴァイオリン・コンクールの会長及び審査員。03年よりイギリスの王立音楽院の名誉会員。また、他分野への興味も深く、オックスフォード大学で、社会学を学んで以来、ナショナル・アイデンティティの研究を続けている。



ソプラノ独唱／イヴォナ・ソボトカ Iwona Sobotka

イヴォナ・ソボトカは、ベルギーで開催されるエリザベート王妃国際音楽コンクールで2004年にグランプリを獲得したことで、直ちに国際的に高い評価を得た。ほかにも、ニューヨークでのイースト&ウエスト国際アーティスト・オーディション、ワルシャワでのポーランド芸術歌曲コンペティション、ピドゴシュチでのパデレフスキ・コンペティションで第1位を獲得している。サー・コリン・デイヴィス、サー・サイモン・ラトル、シルヴァン・カンブルラン、ガブリエル・フムーラ、トーマス・ヘンゲルブロック、ヤツェク・カスプシツェク、イェジー・マクシミウク、アントニ・ヴェイトなどの著名な指揮者と共演してきた。パリ国立歌劇場管弦楽団、ウィーン交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、モネ交響楽団、アルトゥーロ・トスカニーニ財団管弦楽団、セビーリヤ王立交響楽団、ワイマル・シュターツカペレ、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団、およびポーランドの主要なオーケストラすべてに出演している。2007/2008年のシーズンに、パリ国立歌劇場でポール・デュカスの『アリアヌスと青ひげ』にイグレース役として出演したのがデビューだった。同じ作品で2008年夏に日本ツアーを行った。翌シーズンにはモーツァルトの『魔笛』で第1の侍女役としてパリに戻った。また、ワルシャワのポーランド国立歌劇場での初演では、モニューシュコの『ヴェルブム・ノビレ』でズジア役を演じている。さらに、ハンス・エルク・シェレンベルガーからハイドンの『勘違いの不貞』のヴェスビーナ役(主役)として招かれた。ポーランドの音楽作品、特にカレル・シマノフスキの作品の解釈で広く認められている。2004年には、オランダ・レーベルの「Channel Classics」がリリースするシマノフスキ全集録音に貢献した。その後、2006年の「EMI Classics」のリリースでは、サー・サイモン・ラトルおよびバーミンガム市交響楽団との共演で『おとぎ話のプリンセス』を歌っている。また、ポーランド国立放送交響楽団の演奏で、ポーランドのラジオ局のためにシマノフスキの管弦楽曲を録音した。昨シーズンは、ピョートル・アンデルシェフスキが主事を務めるロンドンのウィグモア・ホールで、シマノフスキ・フォーカスに参加した。『The Chopin's National Edition』に載せるかたちで、ショパンの曲を歌った新しいアルバムが最近『BeArton』からリリースされた。特筆すべき最近の初演としては、シュレースウィヒ・ホルシュタイン音楽祭でスタニスワフ・モニューシュコの『ハルカ』の主役を務めたこと、フランス国立管弦楽団によるR.シュトラウスの『四つの最後の歌』の演奏旅行、ラ・フォル・ジュルネ・デ・ナント(フランス)での出演がある。また、サン・セバスティアン音楽週間用にエドワード・チリダがテキストを書いたブルーノ・ドツァの作品で主役を演じている。メクレンブルク・フォアポンメルン音楽祭にも定期的に招かれており、2007年には観客賞を受賞。ワルシャワのフレデリック・ショパン音楽大学を卒業後、マドリードのレイナ・ソフィア王妃立音楽院で、アーティストとしても教育者としても名高いトム・クラウゼの下で学び続けた。

フスキが主事を務めるロンドンのウィグモア・ホールで、シマノフスキ・フォーカスに参加した。『The Chopin's National Edition』に載せるかたちで、ショパンの曲を歌った新しいアルバムが最近『BeArton』からリリースされた。特筆すべき最近の初演としては、シュレースウィヒ・ホルシュタイン音楽祭でスタニスワフ・モニューシュコの『ハルカ』の主役を務めたこと、フランス国立管弦楽団によるR.シュトラウスの『四つの最後の歌』の演奏旅行、ラ・フォル・ジュルネ・デ・ナント(フランス)での出演がある。また、サン・セバスティアン音楽週間用にエドワード・チリダがテキストを書いたブルーノ・ドツァの作品で主役を演じている。メクレンブルク・フォアポンメルン音楽祭にも定期的に招かれており、2007年には観客賞を受賞。ワルシャワのフレデリック・ショパン音楽大学を卒業後、マドリードのレイナ・ソフィア王妃立音楽院で、アーティストとしても教育者としても名高いトム・クラウゼの下で学び続けた。



桐朋アカデミー・オーケストラ

《桐朋オーケストラ・アカデミー》は、プロ・オーケストラ奏者育成のための教育機関として、富山市の協力のもと、1995年9月、呉羽に開校いたしました。開校以来、桐朋学園の伝統である合奏教育を主とした独自のカリキュラムを編成し、内外の一流の教授陣が指導にあたっています。《桐朋アカデミー・オーケストラ》は、その教育成果を

発表する実践の場として、教授陣及び、ここで研修する国内外各地で選抜された学生を中心に組織され、定期演奏会、特別演奏会、桐朋学園大学院大学生をソリストとする協奏曲の夕べ等の公演を行い、地域の文化活動にも貢献しています。



富山市大沢野文化会館 〒939-2254 富山市高内365